

2023年度版ルール 新旧対照表

7. ライフルルール

旧

表紙
10mエアライフル
50mライフル
300mライフル
300mスタンダードライフル

新

表紙
10mエアライフル **個人**
10mエアライフルミックス
50mライフル
300mライフル
300mスタンダードライフル

目次
注意の下にイタリック(斜体)で挿入
ライフルルールを通して、斜体で書かれた部分はルールの一部ではないが、生じた状況にルールを適用する際に、選手、コーチおよびジュリーが決断することを支援する、関係するルールの「精神と意図」を説明するものである。

7.4.1.5 文末に挿入 延長チューブは、選手と共に、用具検査により競技前検査または競技後検査で詳細に検査されなければならない。

7.4.1.6.a 文末に挿入 このルールの意図は、選手が見ている照準画像を拡大する望遠鏡としてはたらく「レンズ機構」の使用の禁止である。この唯一の例外は、リアサイトの内側ではなく外側に取り付けられた、選手が照準画像を鮮明に見るための光学矯正用の1枚のレンズだけである。それに加えて、コンタクトレンズやメガネの着用は、選手が射撃以外でも通常に見るために必要不可欠なものであり、視覚画像を拡大する目的の為に外部装着装置ではないので、許される。

7.4.1.6.c 1枚の視力矯正レンズをリアサイトに取り付けてもよいし、選手が視力矯正レンズまたは色付きレンズを着用することもできる。

7.4.1.6.c 1枚の**視力**矯正レンズをリアサイトに取り付けてもよいし、選手が**視力**矯正レンズまたは色付きレンズを着用することもできる。
その逆も同様である。

7.4.1.6.e 文末に挿入

7.4.2.1 バットプレートは上下に調整可能なものでよい。バットプレートはバットストックの中心線から左右にオフセットするか、または垂直軸に対して回転させることができる。複数部品からなるバットプレートを使用している場合、すべての部品がバットストックの中心線から同じ方向にオフセットまたは回転されていなければならない。バットプレートのいかなる部分（最外端）もバットストックの中心線から30mmを超えて張り出してはならない。バットストックの中心線とは、銃身軸線と直角をなす垂直線のことである。

7.4.1.6.f エアライフルおよびスタンダードライフルにおいて、フロントサイトの筒は、リアサイトを通して見た時に円形でなければならない。水平をみるために使われる突出した形状または追加物があってはならない。フロントサイトの内部にある水平および/または垂直をみるための物は許される。

7.4.2.1 定義
以下の定義はライフルルールにおけるライフルの部分に関する疑問を排除することを含んでいる。
~~バットプレートは上下に調整可能なものでよい。バットプレートはバットストックの中心線から左右にオフセットするか、または垂直軸に対して回転させることができる。複数部品からなるバットプレートを使用している場合、すべての部品がバットストックの中心線から同じ方向にオフセットまたは回転されていなければならない。バットプレートのいかなる部分（最外端）もバットストックの中心線から30mmを超えて張り出してはならない。バットストックの中心線とは、銃身軸線と直角をなす垂直線のことである。~~

7.4.2.1.a スtock：ライフルの基本的フレームであり、銃身とアクション、サイト、ピストルグリップおよびバットストックが取り付けられたものである。伝統的な木製ストックのライフルでは、ストックはフォアエンド、チークピース、ピストルグリップおよびバットストックを組み込んだ一体型部品である。

7.4.2.1.b バットストック：ライフルのピストルグリップとバットプレート間の部分である。ストックの最も後ろの張り出し部分であり、銃身軸線に対し両側にオフセットすることができる。バットストックの最下点は、銃身軸下140mmを超えてはならない。この制限は木製ストックのライフルには課されない。バットストックには調節可能なバットプレートを装着することができる。バットプレートは銃身軸下140mmの制限には含まれない。

7.4.2.1.d チークピース：ライフルの選手が頭もしくは頬を置く部分。木製ストックの一部となっていたり、もしくは上下および側方に調整できるアタッチメントである。側方に移動させる場合、その外側の縁は、バットストックの中心線から40mmを超えることはできない。チークピースの表面に柔らかい素材の物質を付けることはできる。

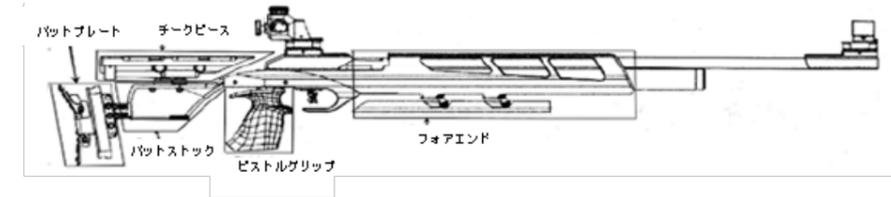
7.4.2.1.e フォアエンド：銃身下のストック前方部分のことで、選手が銃を支える手が触れる部分である。厚さに関して調整できるかまたは動かすことのできる部分を有しているが、それらの表面は直線的で平滑でなければならない。その部分を下げることにはできるが、その最下点は銃身軸線から140mmを超えてはならず、なおかつその幅は60mmを超えてはならない。調節可能部分の上部のフォアエンドの幅が狭い場合、左右にオフセットすることができるが、その外側の縁は銃身軸線から30mmを超えてはならない。グリップ力を増すような物質を付けることはできないし、手形等を作ることもできない。

注) フォアエンドの拡張部はパームレストではない。そのため、取り外しが可能であったとしても、7.6.1.3.gに違反することにはならない。

7.4.2.1.f ピistolグリップ：ピistolグリップは銃軸線を含む垂直面から側方に60mmを越えて張り出してはならない。また、最下点は銃身軸線から160mmを超えてはならない。グリップ力を増すような物質を付けることはできないし、手形等を作ることもできない。

7.4.2.1.g サムホール、サムレスト、パームレスト、ヒールレストおよび水準器は禁止される。サムレストとは選手の引き金を引く手の親指を置くことができるようにピistolグリップの側方の突出部や拡張部のことである。ヒールレストとは手の滑りを防ぐために設計されたピistolグリップ下部の側方に作られた突出部または拡張部のことである。パームレストとは7.4.5.2で定義されているもので、50mライフルのみに許されるものである。

図の挿入



注) この図は a) ~ g) に記載された部分の位置を表示するためのものである。

7.4.2.2~7.4.2.6 は削除

7.4.2.7

7.4.2.7.b バットストックから下方または外側（側方）に突出する装置またはウエイトは禁止される。

7.4.2.2~7.4.2.6 は削除

~~7.4.2.2 サムホール、サムレスト、パームレスト、ヒールレストおよび水準器は禁止される。ヒールレストとは手の滑りを防ぐために設計されたピストルグリップ下部の前方や側方に作られた突出部または拡張部のことである。ピストルグリップ、チークピースまたはストックの下側に解剖学的な形状（手形など）を作ることとはできない。~~

~~7.4.2.3 ピストルグリップは銃軸線を含む垂直面から側方に60mmを越えて張り出してはならない。~~

~~7.4.2.4 ピストルグリップとバットプレート間のバットストックについては銃軸線の下方140mmを超えてはならない。この制限は木製ストックのライフルには適用されない。~~

~~7.4.2.5 フォアエンドは銃身軸線の下方120mmを超えてはならない。~~

~~7.4.2.6 グリップ力を増す物質をフォアエンド、グリップまたはストック下側につけることはできない。~~

7.4.2.72

7.4.2.72.b バットストックから下方または外側（側方）に突出する装置またはウエイトは禁止される。バットストックに固定される形（ビス止めまたはその他の固定方法）で取り付けられていなければならない。それらは、バットストックの中心線から25mmを超えて側方に突き出たはならず、銃身軸線から140mmを超えて下方に突き出たはならない（7.4.4.2.f）。

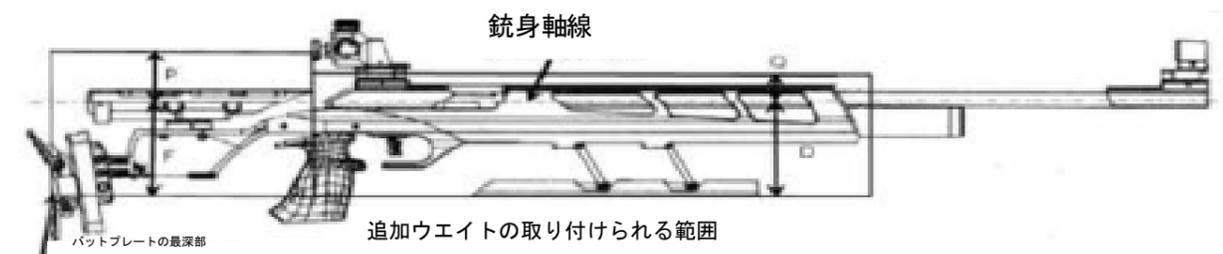
7.4.2.7.c バットプレートの下部から前方および側方に突出する装置またはウエイトは禁止される。

7.4.2.7.d ウエイトはライフルのどの部分にも装着ができるが、ストックの基本形状の中になければならないバットストック部のウエイトは、バットプレートの最深部を通る垂直線より後部に突き出して配置することはできない。ウエイトはストックから突き出ることにはできない。

7.4.2.72.c ~~バットプレートの下部から前方および側方に突出する装置またはウエイトは禁止される銃身ウエイト以外のウエイトはライフルのどの部分にも装着ができるが、次の図で示す範囲内に限られる。フォアエンドの下側に取り付けられるウエイトについては、水平方向（側方）には、チークピースの最大拡張幅（J1）を超えて取り付けることはできない。バットストックに取り付けられるウエイトは、バットプレートの最深部を通る垂直線より後部に突き出して配置することはできない。~~

7.4.2.72.d ~~ウエイトはライフルのどの部分にも装着ができるが、ストックの基本形状の中になければならないバットストック部のウエイトは、バットプレートの最深部を通る垂直線より後部に突き出して配置することはできない。ウエイトはストックから突き出ることにはできない。ウエイトはライフルから不意に外れたり位置を変えたりしないように、半永久的な方法でしっかりと取り付けられなければならない。ウエイトを取り付けるのに見える形での粘着テープの使用は禁止される。~~

7.4.2.72.d 選手は、放送や写真を通じてオリンピック種目の紹介となる事をふまえ、自身と使用している用具のイメージに気を使うこと。従って、ライフルとその付属品が粘着テープや結束バンドのような間に合わせの方法で取り付けられているように見られないようにすべきである。自動車のホイールバランス用の鉛のウエイトの大きな塊は不体裁でふさわしくないので隠すようにするか使用を避けるべきである。次の図に示す限られた範囲にしっかりと取り付けられた市販品の金属ウエイトは容認できるものである。



寸法についてはライフル規格図7.4.4.1およびライフル規格表7.4.4.1参照

7.4.2.7.e ウェイトをライフルに取り付ける際にはどのような種類のテープも使用することはできない。

7.4.3.b ~その位置を変えることはできない。

7.4.4.2 ライフル規格表
C、D、E、F、J1、J2、Kの長さは銃身軸線より測定する。

B フロントサイトのチューブの外径

C 60mm 60mm

D 120mm 120mm

F ピistolグリップからバットプレートまでの間のバットストックの下端までの長さ（木製ストックには適用されない）。

K バットプレートをオフセットする場合の銃床後部の中心線からバットプレート最外端までの距離。（7.4.2.1）

7.4.2.7.eは ~~ウェイトをライフルに取り付ける際にはどのような種類のテープも使用することはできない。~~
削除

7.4.3.bの文 ~その位置を変えることはできない。クイックファスナーの末に挿入 使用は許されない。

7.4.4.cを追加 どのようなエアライフルも7.5ジュールを超えてはならず、
Ⓕ F が付けられていなければならない。

7.4.4.2 ライフル規格表
C、D、E、F、J1、J2、~~K~~、~~P~~、~~Q~~の長さは銃身軸線より測定する。

B フロントサイト（円形でなければならない）のチューブの外径

C ~~60mm 60mm~~

80mm 80mm

D ~~120mm 120mm~~

140mm 140mm

F ピistolグリップからバットプレートまでの間のバットストックの下端までの長さ（木製ストックには適用されない）。

追加ウェイトの最下点

K バットプレートをオフセットする場合の銃床後部のバットストック中心線からバットプレート最外端までの距離。（7.4.2.1）

Pを追加 リアサイトより後方に取付けるウェイトの最大高 60mm 60mm

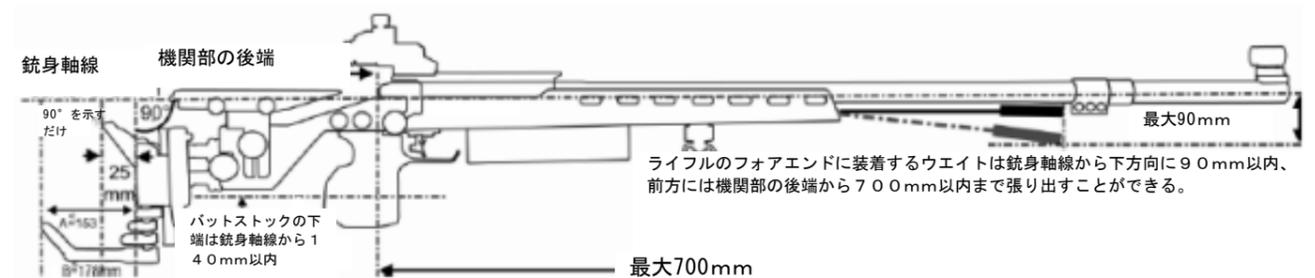
Qを追加 フロントサイトとリアサイト間に取付けるウェイトの最大高 30mm 30mm

7.4.5の文末 ルールではライフルに取付けられた装着物、例えば追加のサイトに追加
 サイトなどの全ての組み合わせについて禁止することはできないが、このルールの「精神と意図」（6.8.13による）としては、50mライフルとは、下図に示されるような一般的な形状の、すなわち1組のサイト、バットストック、パームレストまたは可動式フォアエンドなどが装着されたライフルであるべき、ということである。このことは競技の各ステージにおいてこれらの装備を交換することを妨げるものではない。

7.4.5.eの文 射撃後または三姿勢種目の姿勢変換時にライフルを置く際に
 末に追加 支えとなる二脚（バイポット）として使用できるように変形可能なウエイトについては、どのようなものも受け入れることはできない。

図の移動

7.4.5.1の前に



7.4.5.1 a, b, c, d, eを削除

7.4.5.2 パームレスト
 パームレストとはフォアエンドの下部に装着し前方の手でライフルを保持することを補助するための取り外しのできる用具を指す。整形外科的形態（指または親指状の溝やくぼみ）は許される。このような延長装着物は銃身軸線下200mmを超えてはならない。パームレストは、エアライフルにおいては、どのような状況においても使用できない。パームレストが使用できるのは、50mライフルの立射姿勢においてのみである。
 銃身軸線下140mm以内で使用される直線的で平滑な表面を持つフォアエンドの拡張物はパームレストではない。

7.4.5.2 パームレスト
 パームレストとはフォアエンドの下部に装着し前方の手でライフルを保持することを補助するための取り外しのできる用具を指す。このような延長は銃身軸線下200mmを超えてはならない。

7.5.1.2 どのISSF選手権大会においても全てのライフル種目を通じて選手1人に対し、射撃ジャケット、射撃ズボンの各々1組だけを使用することができる。すべての射撃ジャケットおよび射撃ズボンは、ISSF用具検査によって発行され、ISSFデータベースに登録されたシリアルナンバーを示すタグがなければならない。タグのないジャケットやズボンは、タグを付け、ISSFデータベースに登録するために、選手によって用具検査室に持ち込まなければならない。各選手には1着のジャケットおよび1本のズボンのみ登録することができる。ISSFのタグの付いたジャケット2着以上またはズボンを2本以上もっている選手は、これからの大会においてどの用具を使うのかをISSF用具検査に通告し、各々通告した1つを残しその他の用具についてはISSFのタグをはずさなければならない。登録したジャケットやズボンを変更したい選手は、新たな用具にタグを付け、以前の用具のタグをはずすために、用具検査室にそれらの用具を運び込まなければならない（GTR6.7.6.2.e）。競技後検査に選ばれた選手については、登録された服装が登録された選手によって使用されていたかを検査において確認しなければならない。

7.5.1.2 どのISSF選手権大会においても全てのライフル種目を通じて選手1人に対し、射撃ジャケット、射撃ズボンの各々1組だけを使用することができる。すべての射撃ジャケットおよび射撃ズボンは、ISSF用具検査によって発行され、ISSFデータベースに登録されたシリアルナンバーを示すタグがなければならない。タグのないジャケットやズボンは、タグを付け、ISSFデータベースに登録するために、選手によって用具検査室に持ち込まなければならない。各選手には~~1~~2着のジャケットおよび~~1~~2本のズボンのみ登録することができる。ISSFのタグの付いたジャケット2着~~以上~~またはズボンを2本~~以上~~もっている選手は、~~これからのその大会においてどの用具を使うのかをISSF用具検査に通告しなければならない。~~~~各々通告した1つを残しその他の用具についてはISSFのタグをはずさなければならない。~~登録したジャケットやズボンを変更したい、またはタグの付いていない用具（新しい物および変更する物）を持つ選手は、新たな用具にタグを付け、以前の用具のタグをはずすために、用具検査室にそれらの用具を運び込まなければならない（GTR6.7.6.2.e）。競技後検査に選ばれた選手については、登録された服装が登録された選手によって使用されていたかを検査において確認しなければならない。

7.5.2.2の文（6.5.2 参照）
末に追加

7.5.4.6の文 袖の端は、明白な支えとなっていなければ、ライフルに触れることは許される。
末に追加

7.5.5.1 射撃ズボンの厚さは、どの平らな面で測定しても、裏地を含めて、一重で2.5mm、二重で5mmを超えてはならない。射撃ズボン着用の際、上端が骨盤の頂点より50mmを超えて高くなってはならない。ポケットはすべて禁止される。ズボンの脚部またはお尻の周囲を締め付けるようなひも、ジッパー等はすべて禁止される。ズボンを支えるために幅40mm以下、厚さ3mm以内の通常のベルトまたは伸縮するサスペンダーを使用してよい。立射姿勢でベルトを着用する場合はバックルや締め具を左腕や左肘の支えとして使用してはならない。ベルトは左腕や左肘の下にあたる部分で二重、三重等にしてはならない。ズボンにウエストバンドがある場合、その幅は70mmを超えてはいけない。ウエストバンドの厚さが2.5mmを超える場合はベルトの使用は許されない。ズボン着用の際にベルトを使用しない場合、ウエストバンドの最大の厚さは3.5mmとする。ベルトループ（ベルトを通す輪）は最大7本までで、それぞれの幅が20mmを超えてはならず、ベルトループ間は80mm以上あること。ズボンは、1つのホックで5個以下の留め具または受け金具が5個以下のスナップボタンまたは類似の留め具またはベルクロ（マジックテープ）を使用して閉じてよい。ズボンを閉じる方法は1つの方法のみが許可される。ベルクロ（マジックテープ）その他の方法での併用は禁止される。ズボン

7.5.8.2 スリング

7.5.5.1 **厚さ**—射撃ズボンの厚さは、どの平らな面で測定しても、裏地を含めて、一重で2.5mm、二重で5mmを超えてはならない。
a) 高さ—射撃ズボン着用の際、上端が骨盤の頂点より50mmを超えて高くなってはならない。
b) ポケット—ポケットはすべて禁止される。
c) 締め付け具—ズボンは両脚の部分で余裕がなければならぬ。ズボンの脚部またはお尻の周囲を締め付けるようなひも、ジッパー等はすべて禁止される。
d) ウエストベルト—ズボンを支えるために幅40mm以下、厚さ3mm以内の通常のベルトまたは伸縮するサスペンダーを使用してよい。立射姿勢でベルトを着用する場合はバックルや締め具を左腕や左肘の支えとして使用してはならない。ベルトは左腕や左肘の下にあたる部分で二重、三重等にしてはならない。
e) ウエストバンド—ズボンにウエストバンドがある場合、その幅は70mmを超えてはいけない。ウエストバンドの厚さが2.5mmを超える場合は**ウエストベルト**の使用は許されない。ズボン着用の際に**ウエストベルト**を使用しない場合、ウエストバンドの最大の厚さは3.5mmとする。
f) ベルトループ—ベルトループ（ベルトを通す輪）は最大7本までで、それぞれの幅が20mmを超えてはならず、ベルトループ間は80mm以上あること。
h) 通常のズボン—射撃ズボンを着用しない場合、体のどの部分にも人工的な支えを与えることのない通常のズボンを着用してよい。

7.5.6.1の文 **選手が内手袋を着用する場合、厚さ測定はそれも含めて測定末に追加されなければならない。**

7.5.8.2 スリング

スリングの幅は最大40mm。左上腕部のみに装着し、そこからライフルのフォアエンドに接続させて使用しなければならない。スリングはライフルのフォアエンドとは1点のみで取り付けられる。スリングは手または手首の一方の側のみに沿って通っていないなければならない。スリング止め金具またはハンドストップを除いて、ライフルのどの部分もスリングおよびスリングの付属品に触れることはできない。

7.5.8.7 ニーリングヒールパッド
最大寸法20cm×20cmの柔軟で圧縮性のある素材でできた物を、膝射姿勢をとったときに、踵の上に置いてもよい。ニーリングヒールパッドは、ライフル用の服装の厚さ測定器で測定して、10mmより厚くならない。

7.5.8.8 バイザーと帽子
帽子やバイザーを着用することはできるが、選手の射撃中は、それらがリアサイトに触れたり置かれたりしてはならない（サイトから明らかに離れていなければならない）。帽子やバイザーは選手のひたいから80mmを超えて張り出すことはできず、それらをサイドブラインダーとして使用するよう着用することはできない。

スリングの幅は最大40mm。左上腕部のみに装着し、そこからライフルのフォアエンドに接続させて使用しなければならない。スリングはライフルのフォアエンドとは1点のみで取り付けられる。スリングは手または手首の一方の側のみに沿って通っていないなければならない。**スリングが二重になっていて、手または手首の周りを通る部分で、二重になったスリングをずらして幅40mmを超えて使用できるようならば、ずらせないように留めるか張り付けなければならない。**スリング止め金具またはハンドストップを除いて、ライフルのどの部分もスリングおよびスリングの付属品に触れることはできない。

7.5.8.7 ニーリングヒールパッド
最大寸法20cm×20cmの柔軟で圧縮性のある素材でできた物を、膝射姿勢をとったときに、踵の上に置いてもよい。ニーリングヒールパッドは、ライフル用の服装の厚さ測定器で測定して、**+20mm**より厚くならない。

7.5.8.8 バイザーと帽子
帽子やバイザーを着用することはできる。**が、選手の射撃中は、それらがリアサイトに触れたり置かれたりしてはならない（サイトから明らかに離れていなければならない）。**帽子やバイザーは選手のひたいから80mmを超えて張り出すことはできない。**ず、軟らかい素材の帽子やバイザーがリアサイトに触れるのは構わない。軟らかくないまたは硬い素材の帽子やバイザーはリアサイトに触れることは許されない。それらをどのようなタイプの帽子やバイザーであってもサイドブラインダーとして使用するよう着用することはできない。ず、ジュリーが同じ高さの側方から見た時に選手の目が確認できなければならない。**
リアサイトに帽子やバイザーが触れることを禁止する本来の目的は、それが選手のチェックポイントとして使用されるのを防ぐことと、ライフルの水平方向の回転を防ぎ安定性が増す可能性に対してである。軟らかいゴム製のバイザーではそのような有利性はなく、従って許されるものである。

7.6.1.1.j ニーリングロールを使用しない場合は、右足はどのような角度でも置くことができる。このことは右足の側面と下腿が射座の床面と接触することを含むものである。	7.6.1.1.j ニーリングロールを使用しない場合は、 右足 はどのような角度でも置くことができる。このことは 右足の側面と下腿が射座の床面または射撃マット と接触することを含むものである。
7.6.1.1.l 射撃マットを使用する場合、選手は射撃マットの上で姿勢をとることもできるが、姿勢の3ヶ所の床面との接点（つま先、右膝、左足）のうちの1ヶ所または2ヶ所だけをマットの上に置くこともできる。他の物体やあて物を右膝の下に敷くことはできない。	7.6.1.1.l 射撃マットを使用する場合、選手は 射撃マットの上で姿勢をとることもできるが、 姿勢の3ヶ所の床面との接点（つま先、 右膝、左足 ）の うちの全てまたは一部を1ヶ所または2ヶ所だけを マットの上に置くこともできる。他の物体やあて物を右膝の下に敷くことはできない。 もし必要ならば、ニーリングロールはマットと併せて使うことができる。
7.6.1.1.n 右手は左手、左腕または射撃ジャケットまたはスリングの左側に触れることはできない。	7.6.1.1.n 右手は左手、左腕または射撃ジャケットの 左側 またはスリングの 左側 に触れることはできない。
7.6.1.2.f ライフルはスリングによって支えることができるが、左手より後方のフォアエンドに射撃ジャケットが触れてはならない。	7.6.1.2.f ライフルは、 ハンドストップの前部でフォアエンドに装着されているスリング によって支えることができるが、 左手より後方のフォアエンドに射撃ジャケットが触れてはならない。
7.6.1.3.d 右肩の範囲を超える部分の射撃ジャケットや胸にライフルが触れてはならない。	7.6.1.3.d 右肩の範囲胸の中心線 を 明白に を超える部分の射撃ジャケットや胸にライフルが触れてはならない。
7.6.1.3.f ライフルは、その他の体の部位または物体に触れたり、託したりしてはならない。	7.6.1.3.f ライフルは、 7.6.1.3.bで許された範囲を除き、 その他の体の部位または物体に触れたり、託したりしてはならない。 ライフルと選手の服装のその他の部分、選手の顔とリアサイト（目かくし板が取り付けられている場合には目かくし板とも）、そして両手の間は明白に見ることのできる隙間がなければならぬ。
7.6.1.3.i この姿勢では、スリングの使用は禁止される。	7.6.1.3.i この姿勢では、スリングの使用は禁止される、 7.6.1.3.jは削除
7.7 ライフル種目 GTRの始めの部分にあるISSF承認射撃種目およびライフル種目本選一覧表7.7.4参照のこと	7.7 ライフル種目 GTRの始めの部分にある ISSF承認射撃種目 3.3 およびライフル種目 本選 一覧表7.7.4参照のこと
7.7.4 ライフル種目本選一覧表（ISSF）	7.7.4 ライフル種目本選一覧表（ISSF）

10m ミックス チーム		2×30			30分
50m ライフル 3姿勢		120		3時間 15分	2時間 45分
300m ライフル 3姿勢		120		3時間 15分	2時間 45分
300m ライフル 伏射					1時間
300m スタン ダード ライフル 3姿勢	男				2時間

10m ミックス チーム		2× 30			30分
50m ライフル 3姿勢		120 60		3時間 15分 2時間	2時間 45分 1時間 30分
300m ライフル 3姿勢		120 60		3時間 15分 2時間	2時間 45分 1時間 30分
300m ライフル 伏射					1時間 50分
300m スタン ダード ライフル 3姿勢	男 オープン				2時間 1時間 45分

7.7.5 ライフル規格一覧表（国内適用含む）

300m スタン ダード ライフル	5.5kg (男)				使用でき ない
----------------------------	--------------	--	--	--	------------

300m スタン ダード ライフル	5.5kg (男)				使用でき ない クイックファ スターも使用 できない
----------------------------	-------------------------	--	--	--	--

表の最下部に追加 注)ライフルは、パームレストまたはハンドストップ（もし使用するなら）を含めアクセサリを全て付けた状態で重さを量ること。

射撃用服装の特徴 7.5.1
通則
バットプレートー50mライフル／300mライフル
パームレストー50mライフル／300mライフル
ピストルグリップー50mライフル／300mライフル
フックー50mライフル／300mライフル
帽子とバイザー

射撃用服装の特徴 7.5.1.3/7.5.1.4
~~通則 (削除)~~
~~バットプレートー50mライフル／300mライフル~~
~~パームレストー50mライフル／300mライフル~~
~~ピストルグリップー50mライフル／300mライフル~~
~~フックー50mライフル／300mライフル~~
帽子とまたはバイザー